

平成26年度全国学力・学習状況調査の調査結果の概要について

1 調査の概要

- (1) 実施日 平成26年4月22日(火)
- (2) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒
- (3) 調査内容
- ① 教科に関する調査(国語、算数・数学)
- ・国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
 - ・国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題
- ② 質問紙調査
- ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査
- (4) 参加状況(全国で公立小学校20,177校、公立中学校9,742校が4月22日に調査を実施)

○本県(公立)

	参加校	22日実施校	後日実施校
小学校	203	203	0
中学校	104	98	6
特別支援学校(小学部)	1	0	1
特別支援学校(中学部)	1	0	1

2 教科に関する調査結果の概要

(上段：平均正答数 下段：平均正答率(%))

	国語A				国語B			
	平成26年度		平成25年度		平成26年度		平成25年度	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
小学校	10.9/15	11.0/15	11.3/18	11.3/18	5.5/10	5.3/10	4.9/10	5.0/10
	72.9	73.2	62.7	62.6	55.5	53.5	49.4	50.1
中学校	25.4/32	25.3/32	24.4/32	24.7/32	4.6/9	4.6/9	6.1/9	6.1/9
	79.4	79.0	76.4	77.1	51.0	50.8	67.4	67.5

	算数・数学A				算数・数学B			
	平成26年度		平成25年度		平成26年度		平成25年度	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
小学校	13.3/17	13.4/17	14.7/19	14.9/19	7.6/13	7.5/13	7.6/13	7.6/13
	78.1	78.6	77.2	78.6	58.2	57.7	58.4	58.5
中学校	24.3/36	24.7/36	22.9/36	23.6/36	9.0/15	9.1/15	6.6/16	6.9/16
	67.4	68.5	63.7	65.5	59.8	60.5	41.5	42.9

- ※ 小学校では、主として「知識」に関する問題（問題A）については、全国平均正答率を上回っているが、主として「活用」に関する問題（問題B）については、全国平均正答率を下回っている。
- ※ 中学校では、国語については、問題A、問題Bとも全国平均正答率を下回っているが、数学については、問題A、問題Bとも全国平均正答率を上回っている。

3 文部科学省による分析（「平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」平成26年8月より）

文部科学省によると、全国的には、以下のような課題や傾向が見られると分析している。

教科に関する調査

【国語】

- 小学校 ・立場や根拠を明確にして話し合うことについて、発言をする際に一定の立場に立ってはいないが、根拠を明確にした上で発言をする点に課題がある。
- 中学校 ・自分の考えを表す際に、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点に課題がある。
 - ・文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点に課題がある。

【算数・数学】

- 小学校 ・数量の大小の比較する際に、根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明することについて課題がある。
 - ・図を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図を解釈したりすることに課題がある。
- 中学校 ・確率を用いた理由の説明、グラフを用いた方法の説明に課題がある。
 - ・図形の性質を証明することについて、方針を立て、証明を書くことに課題がある。

児童生徒質問紙調査

- ・児童生徒の学習・生活習慣と学力との関係については、①学習に対する関心・意欲・態度、②家庭学習・読書、③学校生活、④基本的な生活習慣、⑤メディアとの関係、⑥家庭でのコミュニケーション、⑦社会に関する興味・関心、⑧自尊意識・規範意識の項目で肯定的な回答をした小・中学生ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

学校質問紙調査

- ・学校における指導等と学力の関係については、①指導方法・学習規律、②言語活動、③総合的な学習の時間、④家庭学習、⑤研修などの指導等を行った小・中学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。